

専門分野：老年看護学

<概要>

老年看護学で目指すものは、人生の最終段階にある老年期にある対象が、最期までその人らしさが維持できるよう支援することです。

講義は、4科目 4単位 105時間で構成されています。

「老年看護学概論」は、加齢による身体的・心理・社会的変化を理解し、高齢社会の現状、高齢者のライフスタイルやニーズを知り、老年看護の目的・目標及び役割を学びます。また、高齢社会の保健・医療・福祉に対する理解を深め、高齢社会の現状、高齢者施策や介護問題および高齢社会における権利擁護・倫理的課題について学びます。

「老年看護学Ⅰ」は、加齢に伴う身体的・心理的機能の変化が、老年期の疾病の発病と経過に及ぼす影響を考え、老年期に多い疾病の病態・症状・治療について学びます。

「老年看護学Ⅱ」は、老年看護学の基礎となる知識・技術を活用して、生活を整えるための援助を学びます。この科目では、高齢者の模擬体験を行い、高齢者の知覚機能・身体機能の変化による日常生活の不自由さを体験し、高齢者の心理への気づきや環境調整の意義・必要性を理解する機会とします。

「老年看護学Ⅲ」は、加齢変化を踏まえ、疾病・障害を持つ高齢者の理解と予防を重視した看護の基本を学び、紙上事例を用いて看護を展開する方法を学びます。

<単位> 4単位 105時間

<目的>

老年期にある対象と家族の特性を理解し、健康レベルに応じた看護ができる基礎的能力を養う。

<目標>

1. 高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴を理解する。
2. 高齢者に起こりやすい疾患・障害に応じた看護を理解する。
3. 高齢者とその家族が抱える諸問題を理解する。
4. 保健、医療、福祉における老年看護の役割・活動について理解する。
5. 高齢者の尊厳と権利について考える。

＜老年看護学の科目構成と単位時間数等＞

科 目	単位	時間	年次	時期	学 習 項 目
老年看護学概論	1	30	1年	前期	・ 老年期の理解 ・ 老年期の発達課題 ・ 加齢に伴う心身の変化 ・ 老年看護の目的と役割 ・ 高齢社会と社会保障 ・ 権利擁護と倫理的課題
老年看護学Ⅰ	1	15	2年	前期	・ 高齢者生理的特徴 ・ 老年症候群 ・ 高齢者のフィジカルアセスメント ・ 高齢者のリハビリテーション ・ 高齢者の疾患の特徴 ・ 高齢者と薬
老年看護学Ⅱ	1	30	2年	前期	・ 高齢者の生活機能を整える看護 ・ 高齢者模擬体験 ・ 高齢者とのコミュニケーション ・ 高齢者のエンドオブライフケア ・ 高齢者のリスクマネジメント
老年看護学Ⅲ	1	30	2年	後期	・ 疾病・障害をもつ高齢者の看護 ・ 治療・検査をうける高齢者の看護 ・ 高齢者にみられる症状と看護 ・ 認知症高齢者の看護 ・ 運動機能に障害のある高齢者の看護 ・ 看護過程の事例展開
小計	4	105			

科目名		科目担当者	開講時期	単位数／時間数	
老年看護学概論		専任教員	1年次前期	1単位／30時間	
科目目標					
1. 加齢による身体的、心理的・社会的特徴とそれに伴う生活の変化を理解する。 2. 高齢社会の統計的特徴を理解する。 3. 高齢社会の現状をふまえ、老年看護の特徴と役割を理解する。 4. 高齢社会における保健医療福祉と倫理的課題を理解する。					
教科書					
1) 北川公子他 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2) 佐々木英忠他 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論 医学書院					
評価方法					
筆記試験、課題 100%					
授業計画					
時間	単 元	授業内容等		授業方法	授業担当
第1回 第 2 回	老年期の理解	1 老いとは 2 老いのイメージ 3 ライフステージとしての老年期 1) 老年期とは 2) 老年期の発達課題 エリクソンによる発達課題 ハヴィガーストによる発達課題		講義 演習	専任教員
第 3 回 第 4 回 第 5 回	高齢者の加齢変化とアセスメント	1 加齢と老化 2 老化の特徴 1) 身体的側面の変化 2) 心理的側面の変化 3) 社会的側面の変化 3 身体に加齢変化とアセスメント 1) 看護職が行うフィジカルアセスメント 2) 皮膚とその付属器 3) 視聴覚とその他の感覚 4) 循環系 5) 呼吸器系 6) 消化・吸収 7) ホルモンの分泌 8) 泌尿生殖器と性 9) 運動系		講義 演習 講義 演習	専任教員 専任教員
第6回 第7回	老年看護の目的と役割	1 老年看護の理念 2 老年看護の目標 1) 老年看護の特徴 2) 老年看護の機能・役割 3) 家族形態の社会的変化 家族支援 高齢者介護と家族問題 4) 理論・概念の活用 サクセスフルエイジング、ニード論、 危機理論、セルフケア理論、コンフォ ート理論		講義	専任教員

		3 老年看護に携わる者の責務 高齢者のための国連原則 自立、参加、ケア、自己実現、尊厳		
第 8 回	高齢社会と社会保障	高齢社会の統計的輪郭 1) わが国の高齢化 人口構造の変遷 2) 高齢者のいる世帯 3) 高齢者の健康状態 有訴者率、外来受療率、入院受療率 4) 高齢者の死亡 死因の動向 5) 高齢者の暮らし 高齢者の生きてきた時代背景 経済、住居、就業	講義 演習	専任教員
第 9 回				
第10回	高齢社会における保健医療福祉の動向	高齢社会における保健医療福祉システム 1) 制度の変遷 老人福祉法、老人保健法、ゴールドプラン ゴールドプラン 21、オレンジプラン 高齢者の医療費制度 2) 介護保険制度の整備 3) 高齢者を支える職種と活動の多様化	講義	専任教員
第 11 回				
第 12 回				
第 13 回	高齢者の権利擁護と倫理的課題	高齢者における権利擁護(アドボカシー) 1) 高齢者におけるスティグマと差別 エイジズム 2) 高齢者虐待 高齢者虐待防止法 虐待の分類 3) 身体への拘束 4) 権利擁護のための制度 成年後見制度・日常生活自立支援事業 5) 老年看護領域における倫理的課題	講義	専任教員
第 14 回				
第 15 回	試験			

科目名		科目担当者	開講時期	単位数／時間数	
老年看護学Ⅰ		医師	2年次前期	1単位／15時間	
科目目標					
加齢に伴う生理的・精神的機能の変化が、老年期の疾病の発病と経過に及ぼす影響を考え、老年期に多い疾病の病態・症状、診断・治療について理解する。					
教科書					
1)佐々木英忠他 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論 医学書院					
評価方法					
筆記試験 100%					
授業計画					
時間	単 元	授業内容等		授業方法	授業担当
第1回	高齢者の生理的特徴	1 老化と寿命 2 認知・知覚機能の老化 3 呼吸・循環機能の老化 4 代謝・排泄機能の老化 5 免疫機能の老化 6 運動機能の老化 7 性機能の老化		講義	医師
第2回	老年症候群	1 おもに急性疾患に付随する症候 1) 意識障害 2) せん妄 3) 熱中症 4) 脱水症 5) 発熱 2 おもに慢性疾患に付随する症候 1) 腰背痛 2) やせ 3) 手足のしびれ 4) 浮腫 5) 睡眠障害 6) 抑うつ 3 おもにADL低下に合併する症候 1) 転倒・骨折 2) 排尿障害 3) 便秘 4) 嚥下障害 5) フレイル		講義	医師
第3回	高齢者のフィジカルアセスメント	1 問診 1) 高齢者の問診の要点 2) 高齢者総合的機能評価(CGA) 2 視診 3 触診 4 打診 5 聴診 6 バイタルサイン測定 7 画像検査 8 心電図 9 検査 10 栄養評価		講義	医師
	高齢者のリハビリテーション	1 脳卒中後のリハビリテーション 2 運動疾患のリハビリテーション 3 認知症リハビリテーション 4 フレイル・サルコペニアとリハビリテーション 5 非薬物療法としてのリハビリテーション		講義	医師

第 4 回	高齢者の疾患の特徴	1 精神・神経疾患 1)脳卒中 2)パーキンソン病 3)脊髄小脳変性症 4)うつ状態、せん妄	講義	医師
第 5 回		2 認知症 1)認知症の概念 2)認知症の症状 3)認知症の診断に必要な検査 4)認知症をきたす疾患の診断と治療 5)認知症の予防	講義	医師
		3 呼吸器・循環器系の疾患 1)肺炎 2)結核 3)閉塞性肺疾患 4)肺繊維症(間質性肺炎) 5)心不全	講義	医師
		4 内分泌・代謝疾患 1)甲状腺疾患 2)糖尿病 3)脂質異常症 4)水・電解質異常	講義	医師
第 6 回		5 腎・泌尿器系疾患 1)前立腺肥大症 2)神経因性膀胱 6 眼疾患 1)白内障	講義	医師
第 7 回			7 感染症 1)MRSA感染症 2)偽膜性大腸炎 3)インフルエンザ 4)ノロウイルス感染症	講義
		高齢者と薬	1 高齢者の安全な薬物治療 2 高齢者で留意すべきおもな薬物 3 服薬管理能力のアセスメントと服薬支援	講義
第 8 回	試験			

科目名		科目担当者	開講時期	単位数／時間数	
老年看護学Ⅱ		専任教員・看護師	2年次前期	1単位／30 時間	
科目目標					
1. 加齢による変化が日常に及ぼす影響を知り、高齢者の生活を整える看護を理解する。 2. 高齢者におけるエンドオブライフケアと、看護師の役割を理解する。 3. 高齢者のリスクマネジメントを理解する。					
教科書					
1)北川公子他 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 . 2)佐々木英忠他 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論 医学書院 3)泉キヨ子他 根拠がわかる 老年看護技術 メヂカルフレンド社 4)山田律子他 生活機能からみた老年看護過程 病態・生活機能関連図 医学書院					
評価方法					
筆記試験、課題、校内実習 100%					
授業計画					
時間	単 元	授業内容等	授業方法	授業担当	
第1回 第2回 第3回 第4回	生活行動に着目した看護	1. 日常生活を支える基本的動作と看護 1) 老年看護におけるヘルスアセスメントの意義 2) 基本動作と環境のアセスメントと看護 3) 高齢者の生活史・価値観の理解 4) 高齢者の疑似体験 ※ 5) 移乗動作、杖歩行の介助 2. 高齢者看護の役割について考える。 1) 転倒のアセスメントと看護 2) 廃用症候群のアセスメントと看護	講義 演習 ※ 校内実習	専任教員	
第5回 第6回		3. 食事・食生活 1) 食生活に注目する意義 2) 高齢者に特徴的な変調 3) 摂食・嚥下機能のアセスメントと看護 4) 栄養ケア・マネジメント 5) 経管栄養を受けている患者の看護 ※	講義 ※ 校内実習	看護師 専任教員	
第7回 第8回		4. 排泄 1) 排泄ケアの基本姿勢 2) 排泄障害のアセスメントと看護 ・排尿障害のアセスメントと看護 ・排便障害のアセスメントと看護 3) 機能回復訓練 4) オムツ交換 ※	講義 演習 ※ 校内実習	専任教員	
第9回 第10回		5. 清潔・身じたく 1) 清潔・身じたくの意義 2) 高齢者に特徴的な変調 3) 清潔のアセスメント 4) 清潔の看護 整容・更衣、フットケア、口腔ケア・義歯の取り扱い	講義 演習	専任教員	

第 11 回		6. 生活リズム、活動・睡眠 1) 高齢者と生活リズム 2) 高齢者に特徴的な変調 3) 生活リズムのアセスメント 4) 生活リズムを整える看護	講義	専任教員
第 12 回		7. コミュニケーション 1) 高齢者とのコミュニケーションの特徴と関わり方 2) 高齢者に起こりやすいコミュニケーション障害 3) 高齢者とのコミュニケーションにおける看護師の基本姿勢	講義	専任教員
第 13 回	高齢者におけるエンドオブライフケアと看護	1. 終末期における高齢者の看護 1) 高齢者におけるエンドオブライフケア 2) 終末期医療と意思決定 3) 尊厳ある看取り、看取る家族の心理 4) グリーフケア	講義	専任教員
第 14 回	高齢者のリスクマネジメント	1. 高齢者と救命救急 ・救急受診する高齢者の特徴 ・救命救急場面における看護師の役割 2. 高齢者と医療安全 1) 高齢者と医療事故 2) 高齢者特有のリスク要因 3) 病院・施設におけるリスクマネジメント	講義	専任教員
第 15 回	試験			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数	
老年看護学Ⅲ	専任教員・看護師	2年次後期	1単位／30 時間	
科目目標				
1. 疾病・障害を持つ高齢者の特徴と看護について理解する。 2. 治療・検査を受ける高齢者の看護を理解する。 3. 紙上事例を通して、健康障害をもつ高齢者の看護過程を理解する。				
教科書				
1)北川公子他 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2)佐々木英忠他 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論 医学書院 3)泉キヨ子他 根拠がわかる 老年看護技術 メヂカルフレンド社 4)山田律子他 生活機能からみた老年看護過程 病態・生活機能関連図 医学書院 5)田中栄他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器				
評価方法				
筆記試験、課題 100%				
授業計画				
時間	単 元	授業内容等	授業方法	授業担当
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回	疾病・障害を持つ高齢者の看護	1 検査・治療を受ける高齢者への看護 1)検査と看護 2)薬物療法と看護 3)放射線療法・化学療法と看護 4)手術療法と看護 2 高齢者にみられる症状と看護 3 高齢者に起こりやすい疾病の理解 1)脳卒中 2)肺炎 3)前立腺肥大症 4)骨折 5)褥瘡	講義 演習	専任教員 看護師
第 5 回	運動機能障害のある高齢者の看護	1 運動機能障害の特徴 1)症状に伴う看護 姿勢機能障害、神経症状、疼痛 2)検査・治療に伴う看護 3)椎間板ヘルニア、大腿骨頸部骨折の看護	講義	専任教員
第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回	認知症高齢者の看護	2 認知症高齢者の理解と看護 1)認知症症状と生活への影響 2)認知症の人の心の世界とアプローチ 3) 認知症高齢者に対する基本姿勢 4) 認知症ケア技術 生活環境の調整、コミュニケーション方法、バリデーション、回想法、音楽療法、パーソンセンタードケア 等 5)認知症高齢者と家族における倫理的問題	講義 演習	看護師
第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回	看護過程の展開	3 運動機能に障害のある高齢者の看護 事例 大腿骨頸部骨折 1)活動に制限のある患者の看護 2)機能低下・合併症予防 3)安全・安楽を考慮し残存機能を活かした援助 4)自尊感情の保持 5)家族の介護力、社会資源	演習	専任教員
第 15 回	試験			